

統計調査ニュース

令和7年(2025年)2月

No.459



SSDSEをご存じですか？



独立行政法人統計センター理事長 佐伯 修司

皆さん、SSDSEという横文字略称を目にしたこと・聞いたことはありますか？

“Standardized Statistical Data Set for Education”（公的統計をベースに作成した「教育用標準データセット」）の略称で、統計センターが作成し2018年から毎年更新し公開しています。主要な公的統計を地域別に一覧できる表形式のデータセットで、直ちにデータ分析に利用することができます。

統計は多くの方に知ってもらい使っただいて初めて価値が生まれるものです。このため、公的統計を作成する国や地方公共団体では、その利活用の推進に努力を続けてきました。その成果の一つは、政府統計の総合窓口(e-Stat)であり、インターネットへの接続環境があれば、政府が作成している多くの統計に容易にアクセスすることができます。

SSDSEは、アクセスの先にある統計データの分析を多くの方に実際に体験してもらうことを大きな目的としています。しかし、いざ分析となると、自分が関心を持っている課題に関連する統計データにどうたどり着くか、更にと

のような方法で分析するのかという課題に直面します。

SSDSEはデータ分析の初心者でも使いやすい表形式でデータが整理されており、統計教育の現場、データサイエンス演習で活用いただけると思います。こうした取組に資するよう、統計センターでは、データセットの充実を図るとともに、昨年12月には、新たに「SSDSEを使ってみよう」というコンテンツを統計センターのHPに追加しました。Excelを使った基本的なデータ分析の具体的事例を紹介・解説しています。今後更に事例を追加していく予定です。

今年で第8回となる統計データ分析コンペティションの開催の効果もあり、SSDSEのダウンロード数は、近年飛躍的な伸びを見せています(2021年約4万件→2024年約20万件)。SSDSE等を通じて統計の利活用推進に統計センターも大きく貢献していきたいと考えています。是非一度「SSDSE」で検索してみてください。

目次

SSDSEをご存じですか?	1	「なるほど統計学園」を御活用ください!	7
令和5年住宅・土地統計調査の結果から	2	「統計の日(10月18日)」の標語募集!	8
令和6年度登録調査員中央研修を開催しました	4	とうけい通信⑦	
令和7年度統計研修 本科(総合課程)(前期)の御案内	6	山梨県の魅力/山梨県	9

令和5年住宅・土地統計調査の結果から

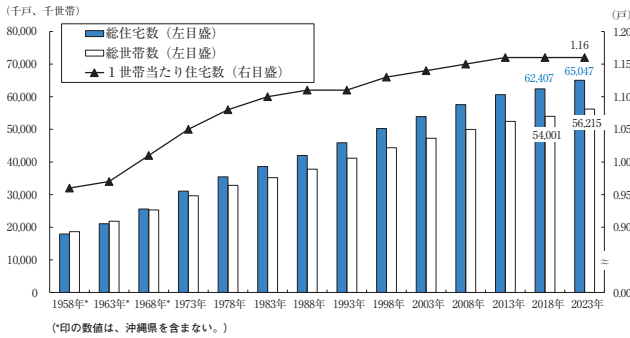
住宅・土地統計調査は、我が国の住宅とそこに居住する世帯の居住状況、世帯の保有する土地等の実態を把握し、その現状と推移を明らかにする調査です。（昭和23年以来5年ごとに実施しており、今回で16回目）令和6年9月25日に住宅及び世帯に関する基本集計結果、令和7年1月29日に住宅の構造等に関する集計結果を公表しましたので、その概要を紹介します。

1 総住宅数は6504万7千戸、2018年から4.2%の増加となり、過去最多

2023年（令和5年）10月1日現在における我が国の総住宅数は6504万7千戸で、2018年と比べ、263万9千戸（4.2%）の増加、総世帯数は5621万5千世帯で、2018年と比べ、221万4千世帯（4.1%）の増加となっています。総住宅数及び総世帯数共に一貫して増加が続いており、過去最多となっています。

1世帯当たりの住宅数は、1.16戸と、2013年以降は同水準で推移しています。（図1）

図1 総住宅数、総世帯数及び1世帯当たり住宅数の推移—全国（1958年～2023年）

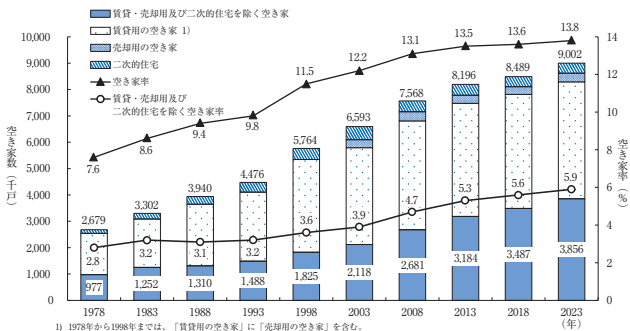


2 空き家数は900万2千戸と過去最多、空き家率も13.8%と過去最高

総住宅数のうち、空き家は900万2千戸と、2018年（848万9千戸）と比べ、51万3千戸の増加で過去最多となっており、総住宅数に占める空き家の割合（空き家率）は13.8%と、2018年（13.6%）から0.2ポイント上昇し、過去最高となっています。

空き家数のうち、「賃貸・売却用及び二次的住宅を除く空き家」は385万6千戸と、2018年と比べ、36万9千戸の増加となっており、総住宅数に占める割合は5.9%となっています。（図2）

図2 空き家数及び空き家率の推移—全国（1978年～2023年）

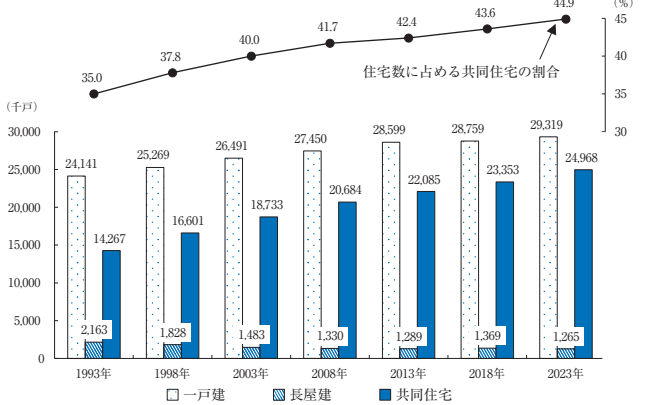


3 共同住宅はこの30年間で約1.8倍の増加

居住世帯のある住宅（以下「住宅」という。）を建てて方別にみると、一戸建が2931万9千戸、長屋建が126万5千戸、共同住宅が2496万8千戸となっています。

共同住宅は1993年から2023年までの30年間で約1.8倍増加しており、住宅全体に占める共同住宅の割合は44.9%で過去最高となっています。（図3）

図3 住宅の建て方別住宅数の推移—全国（1993年～2023年）

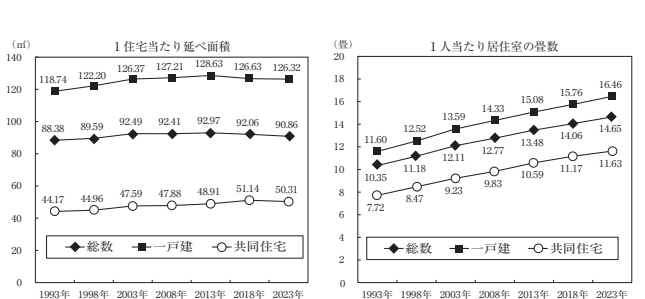


4 1住宅当たり延べ面積は減少、1人当たり居住室の畳数は増加

住宅のうち居住専用建築された住宅（以下「専用住宅」という。）について、1住宅当たりの住宅の規模をみると、延べ面積は90.86㎡で、1人当たり居住室の畳数は14.65畳となっています。

建て方別に1993年から2023年までの30年間の推移をみると、1住宅当たり延べ面積については、一戸建は2013年までは増加が続いていましたが、2018年以降減少傾向となっています。共同住宅は2018年までは増加が続いていましたが、2023年は減少となりました。一方で、1人当たり居住室の畳数は一戸建、共同住宅共に増加が続いています。（図4）

図4 専用住宅の建て方別1住宅当たり延べ面積、1人当たり居住室の畳数の推移—全国（1993年～2023年）



5 借家の1か月当たり家賃は7.1%の増加

借家(専用住宅)の1か月当たり家賃は59,656円となっており、2018年と比べ、7.1%の増加となっています。

種類別にみると、「公営の借家」が24,961円(7.6%増)、「都市再生機構(UR)・公社の借家」が71,831円(2.8%増)、「民間借家(木造)」が54,409円(4.5%増)、「民間借家(非木造)」が68,548円(7.0%増)、「給与住宅」が37,993円(11.6%増)となっており、いずれも増加しています。(表1)

表1 借家(専用住宅)の種類別1か月当たり家賃の推移—全国(2003年～2023年)

年次	総数 ¹⁾	公営の借家	都市再生機構(UR)・公社の借家 ²⁾	民間借家(木造)	民間借家(非木造)	給与住宅
1か月当たり家賃(円)						
2003年	51,064	22,014	58,506	49,626	64,808	23,752
2008年	53,565	22,253	64,048	51,569	64,722	28,125
2013年	54,052	22,394	67,005	51,030	63,005	30,684
2018年	55,695	23,203	69,897	52,062	64,041	34,049
2023年	59,656	24,961	71,831	54,409	68,548	37,993
増減率(%)						
2003年～2008年	4.9	1.1	9.5	3.9	-0.1	18.4
2008年～2013年	0.9	0.6	4.6	-1.0	-2.7	9.1
2013年～2018年	3.0	3.6	4.3	2.0	1.6	11.0
2018年～2023年	7.1	7.6	2.8	4.5	7.0	11.6

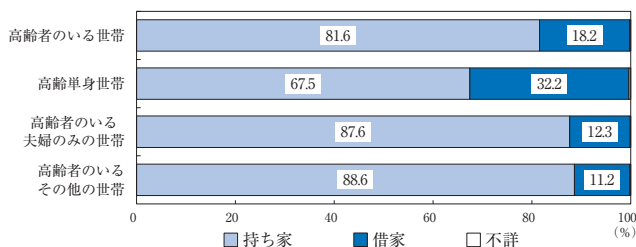
1) 住宅の所有の関係「不詳」を含む。
2) 2003年までは「公団・公社の借家」として表章

6 高齢者のいる世帯の81.6%が持ち家、高齢単身世帯の32.2%が借家に居住

65歳以上の世帯員のいる主世帯^{注1)}(以下「高齢者のいる世帯」という。)について、住宅の所有の関係別割合をみると、持ち家が81.6%、借家が18.2%となっており、主世帯全体の持ち家の割合(60.9%)に比べ、持ち家の割合が20.7ポイント高くなっています。

一方、高齢単身世帯では、借家の割合が32.2%と、高齢者のいる世帯全体と比較して借家の割合が高くなっています。(図5)

図5 世帯の型、住宅の所有の関係別割合(高齢者のいる世帯)—全国(2023年)



注1) 主世帯：1住宅に1世帯が住んでいる場合はその世帯を「主世帯」とし、1住宅に2世帯以上住んでいる場合には、そのうちの主な世帯(家の持ち主や借り主の世帯など)を「主世帯」とした。

注2) 世帯所有空き家：主世帯が現住居以外に所有する居住世帯のない住宅のうち、主な用途が「貸家用」、「売却用」、「二次的住宅・別荘用」以外の住宅(「賃貸・売却用及び二次的住宅を除く空き家」)をいう。例えば、転勤などのため居住世帯が長期にわたって不在の住宅や、使用目的がない住宅など。

※令和5年住宅・土地統計調査の詳しい結果については、次のURLを御覧ください。

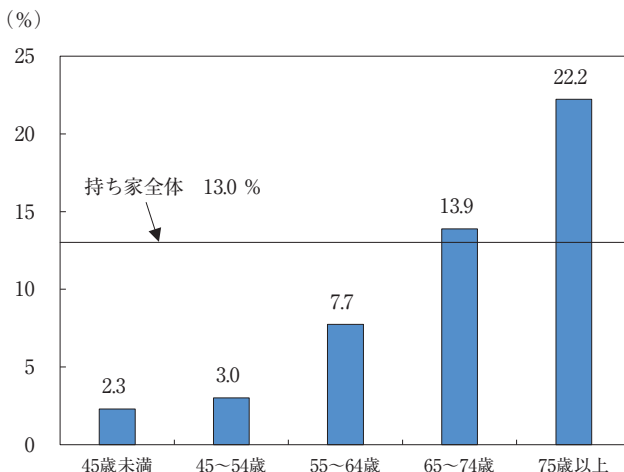
<https://www.stat.go.jp/data/jyutaku/2023/tyousake.html>

7 2019年以降に高齢者等のための設備工事が行われた持ち家の割合は13.0%

2019年以降に高齢者等のための設備工事が行われた持ち家は、持ち家全体の13.0%となっています。

世帯内の最高齢者の年齢階級別にみると、「75歳以上」が22.2%と最も高く、次いで「65～74歳」が13.9%、「55～64歳」が7.7%などとなっており、年齢階級が高くなるほど割合は高くなっています。(図6)

図6 世帯内の最高齢者の年齢階級別2019年以降に高齢者等のための設備工事が行われた持ち家の割合—全国(2023年)



8 世帯所有空き家のうち1980年以前に建築された割合は約7割

世帯所有空き家^{注2)}について建築の時期別に割合をみると、「1970年以前」が44.6%と最も高く、次いで「1971～1980年」が22.8%などとなっており、1980年以前に建築された住宅が全体の約7割を占めています。

世帯所有空き家について取得方法別に割合をみると、「相続・贈与」が61.6%と最も高く、全体の約6割を占めており、次いで「新築・建替」が14.1%、「中古の住宅を購入」が11.8%などとなっています。(表2)

表2 建築の時期、取得方法別世帯所有空き家の割合—全国(2023年)

建築の時期	取得方法別世帯所有空き家の割合(%)					
	総数 ¹⁾	新築・建替	新築の住宅を購入	中古の住宅を購入	相続・贈与	その他
総数 ²⁾	100.0	14.1	4.4	11.8	61.6	4.4
1970年以前	44.6	2.8	0.5	3.8	33.8	2.0
1971～1980年	22.8	3.0	0.8	3.3	13.8	0.9
1981～1990年	14.6	3.3	1.0	2.0	7.0	0.5
1991～2000年	8.4	2.3	1.0	1.1	3.3	0.3
2001～2010年	4.1	1.4	0.5	0.6	1.3	0.3
2011～2023年9月	3.7	1.1	0.5	0.5	1.4	0.1

1) 世帯所有空き家の取得方法「不詳」を含む。
2) 世帯所有空き家の建築の時期「不詳」を含む。

令和6年度登録調査員中央研修を開催しました

総務省政策統括官（統計制度担当）室では、統計調査員に選任されることを希望する者をあらかじめ登録（以下「登録調査員」という。）し、統計調査員の円滑な人材確保に資するとともに、研修等により、その資質の向上を図る人材育成を目的とした「統計調査員確保対策事業」を実施しています。

「登録調査員中央研修」は、この統計調査員確保対策事業の一環として実施しているもので、各地域において中核的・指導的な役割を担う登録調査員の資質の向上及び地域の枠を越えた相互交流を目的としています。

今回は、令和6年12月11日（水）に、全国から登録調査員49名、都道府県及び市町村の職員18名、計67名の参加を得て、集合型（総務省第2庁舎）及びオンライン型（Webex）による同時開催を行いました。

1 挨拶

研修の開催に当たり、北原政策統括官から国の各種統計調査実施の最前線を担ってこられた参加者に対し、お一人おひとりの努力の積み重ねによって集めていただいた調査票が貴重なデータとなり、政策判断の基になっていることなど、これまでの御尽力に対する感謝の思いを伝えました。



参加者からは「データサイエンスという言葉になじみがなく自分たちには分からないことだと思っていましたが、信頼できるデータとして公的データが必要であることがよく分かりました。」「考えも及ばないほどの時代の様子を詳しく知ることができ目からうろこです。AIの時代は信頼するデータが必要で一番大事とのこと、信頼できる公式データの重要性を再認識するとともに調査に携わる誇りを感じました。」「若い世代に対する統計の有用性と重要性を啓発することで、公的統計調査への協力をしやすくする意識醸成を行っているということ、公的統計調査を実施している立場としても有り難いと思いました。」「といった御感想をいただきました。

2 講義「社会における統計の利活用事例について」

愛知教育大学准教授 青山和裕氏に講義をしていただきました。ふだん、教育大学の学生に対して、小中高等学校の生徒にいかに関数をうまく教えるかを指導されていたり、教員研修で教員に対し、統計のニーズが高まっている昨今においてどのように対応していくべきかを指導・研究されていたりする教育研究者という立場から、統計が現在どのような場面でどのように活用されているのか、信頼できる統計がいかに関数の中で重要なことであるかについて、有名大企業によるデータの収集・活用やスポーツのデータ等身近な事例を交えて講義をしていただきました。



講義の様子（東京会場）

3 講義「オンライン回答に関する講義・デモ」

政府統計オンライン調査総合窓口を使用したオンライン回答の方法を、実際にパソコンで実演しながら御案内しました。また、スマートフォンをお持ちの方は、講義の進行に合わせて御自身のスマートフォンを用いてオンライン回答の体験をしていただきました。

参加者からは「今までオンライン回答を促進してい

る立場であったものの、実際に回答したことがなかったので、体験できるいい機会になった。」「調査する側、される側にもお互いメリットがあると思いました。」「といった御感想をいただきました。



オンライン回答体験の様子（東京会場）

4 班別討議

班別討議は、「調査活動において成功した事例、成功するに至った工夫」「調査活動において困った事例、困難だった事例」をテーマに、都道府県を越えた相互交流を図るため、11班に分かれて行いました。今年度も昨年度同様、Webexのブレイクアウトセッション機能を活用し、Webで御参加の皆様にもWeb上で班別討議を行っていただきました。

参加者からは、「それぞれ自分なりにアイデアを出し工夫されながら調査されていて感心しました。持ち帰ってフィードバックしたい。」「実際の調査員の話聞くことで令和7年国勢調査に向けて具体的に準備を進めていけそうです。」「国内どの地域でも事情が似ている感じがしました。調査員の考え方や行動によって成功した人にうまく進まなかった人に、いろいろ苦勞が多いと思いました。」「地域によって抱えている問題が違っていたり意識していることの違いを確認できたことは調査員にとって、今後の調査活動に活かせる内容になっていたと感じました。」「といった御感想をいただきました。

また、「班別討議の時間をもっと長くしてほしい。」「といった御意見もいただいております、活発な議論が行われたことが分かる一方で、来年度以降の研修実施に向けての検討事項となりました。



班別討議の様子（東京会場）

5 班別討議結果発表

班別討議の結果について、東京会場にWebexの画面を投影した上で発表していただきました。調査が困難な世帯の方への対応や調査で困った事例等が発表されました。また、発表いただいた内容や雰囲気などから、班別討議で十分に交流を図ることができたと推察できました。



発表の様子（Webex画面）

今回の研修が参加者の皆様にとって、今後の統計調査員活動や、統計調査員支援・指導のための一助となれば幸いです。

また、今回いただいたアンケートなどを基に来年度もより良い研修を開催いたしますので、機会がございましたら、是非御参加ください。

≫≫令和7年度統計研修 本科(総合課程)(前期)の御案内≪≪

総務省統計研究研修所では、国、地方公共団体の職員（教員を含む。）及び政府関係機関の職員を対象に、統計作成の中核を担う統計人材の育成及び統計を政策の立案等に活用するための統計リテラシーの向上を目的として、様々な研修を実施しています。

未来を担う統計人材を育成するために実施している「本科（総合課程）」ですが、令和7年度から年2回（前期：6月上旬～8月上旬、後期：10月上旬～12月上旬）の開催となり、より受講の機会が増えます。

※講義内容や日程などは変更になる場合があります。前期・後期で講義内容は同じです。

令和7年度「本科（総合課程）」（前期）

研修期間：令和7年6月上旬～8月上旬

募集締切：令和7年4月上旬

募集人員：30名

対象：初級及び中級のオンライン統計研修

5講座（※）修了者

（※）初級「初めて学ぶ統計」

「統計担当者向け入門」

中級「統計分析の基本」

「統計利用の基本」

「調査設計の基本」

（受講予定者は、受講決定後に上記5講座の研修を受講することも可能です。）

本科（総合課程）は、各種行政施策の企画・立案・評価に必要な統計の知識・理論、分析手法と広範囲な応用力の習得を目的として実施しています。

本課程を受講することで、統計に関する知識を網羅的に習得することができます。また、この知識を応用して、統計業務のみならず、各種行政施策の企画・立案・評価を行う際に、統計を活用した分析が可能となります。

～主な講義内容を御紹介します～

本科（総合課程）では、統計教育及び統計業務の第一線で活躍されている経験豊富な講師が講義を行います。講義における演習も充実しており、演習を通じて知識の定着を図るとともに、現場での実践力を養成します。また、一部の科目では、講義内容の効果測定として試験を実施します。

基礎科目：統計解析ソフト(R)によるグラフ作成演習

統計解析ソフトRを使ったグラフ作成・分析ツールの使い方などを習得します。

統計学：記述統計、推測統計、多変量解析など

記述統計では、オンライン統計研修「統計分析の基本」の「記述統計基礎・演習」で学んだ基本統計量、度数分布表の作成などを復習します。推測統計では、オンライン統計研修「統計分析の基本」の「推測統計概論・演習」で学んだ確率・確率分布や区間推定、仮説検定、誤差の推計方法などを復習します。多変量解析では、オンライン統計研修「統計分析の基本」の「重回帰分析の基本」で学習した重回帰分析の方法を踏まえ、多変量解析の手法を応用した演習中心の講義を行い、複数の変数から要因分析を行う力を身に付けます。

統計調査論：統計調査、国際統計、統計分類

統計調査では、統計調査の企画や調査票の設計、結果の集計・公表・提供など、統計調査の実施全般について学びます。国際統計では、世界の統計体系、国際基準、国際統計の情報源などについて学びます。統計分類では、統計分類の仕組み、産業分類の主な変更点などを学びます。

人口・社会統計分析：人口分析、社会分析など

人口分析では、人口統計の体系と調査概要、人口分析の手法、将来人口推計の手法、現下の人口問題などを学び、基礎的な分析力を身に付けます。社会分析では、社会現象にアプローチする上での基礎的なデータ収集法及びデータ分析法などを学びます。

経済統計分析：経済分析基礎理論、国民・県民経済計算、消費・物価分析など

経済分析基礎理論では、経済学の基礎知識を習得するとともに、基本的な分析手法などを学びます。国民・県民経済計算では、その意義、SNAの概要、回帰モデルによる分析手法の基礎などを習得します。消費・物価分析では、その体系や物価指数理論、消費・物価分析の手法、現下の消費・物価問題などを学びます。

統計データアナリスト研修

「公的統計の整備に関する基本的な計画」において、統計作成のみならず政策立案の支援も行う統計業務資格保有者である「統計データアナリスト」を育成することとなっており、本科（総合課程）は「統計データアナリスト課程」と位置付けられています。

統計データアナリストに必要な統計作成プロセスの各業務に必要な事項、品質管理、関連制度、政策への統計データの活用について学習することにより、統計データアナリストに必要な知識を身に付けます。

～個人研究やグループ演習も行います～

座学による理論の習得のほか、個人でテーマを決めて分析・発表する個人研究及びグループで統計調査の企画・設計から集計・発表までを行うグループ演習を行います。

個人研究

受講者それぞれが、興味のある分野について研究テーマを設定した上で、研修で学んだ統計理論や分析手法を用いて分析を行い、レポートを執筆するとともに、プレゼンテーション手法を学び、発表も行います。



教室の様子

調査企画（グループ演習）

5人程度のグループで、どのような調査を行うかのテーマを選定した上で、調査票の作成、標本設計、結果表の作成など、調査の企画設計全体に係るグループ演習を行います。

公務における統計データの利活用の重要性はますます高まっています。本科（総合課程）では、約1か月間で、初級及び中級のオンライン統計研修を修了し、2か月間の対面研修で、統計に関する知識を網羅的に習得できる研修内容となっています。是非受講、派遣を御検討いただければと思います。統計研究研修所は、皆様の受講をお待ちしています。

御不明な点については、下記の間合せ先まで御連絡ください。

問合せ先：統計研究研修所 管理・研修部
研修企画課 企画係
TEL：042-320-5874
E-mail：o-kenkikaku@soumu.go.jp

「なるほど統計学園」を御活用ください！

「なるほど統計学園」は、子どもたちに日々の出来事の中で統計を意識してもらうとともに、統計データの見方や基礎的な統計の知識のほか、統計の有用性、統計調査の仕組みなどについて学んでもらうことを目的として開設した統計学習サイトです。



【初級編】我が国が作成している統計や棒グラフ・円グラフなどの基礎的なグラフの作り方などを紹介

【上級編】初級編より高度な内容になっており、推測統計や調査の企画設計についてなどを紹介

【参考】統計用語辞典や統計エピソード集などを紹介

【宇宙統計ステーションNARUHODO】では、統計の基礎知識や統計グラフの特徴などを、動画やチャット風のインタラクティブを使って分かりやすく解説したり、ゲームをしながら統計に関係する用語を学習したりできるようにしています。是非御活用ください。



なるほど統計学園 ⇒ <https://www.stat.go.jp/naruhodo/>



「統計の日(10月18日)」の標語募集!

募集期間：令和7年2月3日(月)～3月31日(月)

1. 趣旨

総務省では、統計の重要性に対する国民の関心と理解を深めていただくとともに、統計調査に対する国民のより一層の御協力を頂けるようにと定められた「統計の日(10月18日)」を中心として統計知識の普及のための周知広報を行っております。その一環として、毎年「統計の日」のポスターを始めとする広報媒体に活用すべく標語を募集しています。

総務省では、この「統計の日」の趣旨を踏まえた標語について、皆様からの御応募をお待ちしております。

なお、入選作品は、「統計の日」のポスターのほか、調査環境を整備するための各種広報に活用することとしております。

2. 募集部門

- 小学生の部……小学校の児童
- 中学生の部……中学校の生徒
- 高校生の部……高等学校の生徒
- 一般の部……上記以外の学生及び一般の方
- 統計調査員の部…統計調査員又は登録調査員の方
- 公務員の部……各府省、都道府県、市区町村の職員

3. 応募について

- 応募用紙にて、1人5作品まで応募できます。
- 応募用紙以外で応募される場合は、次の記載事項を明記の上、応募してください。
 - ①部門、②お住まいの都道府県名、
 - ③氏名(ふりがな)、④所属・学校名(学年)、
 - ⑤電話番号、⑥標語(1人5作品まで)
 ※一般の部：④は、記入不要です。
 ※統計調査員の部：④は、「〇〇市統計調査員」等と記入してください。
 ※②～⑤の情報は、応募作品内容の確認や入選時等の連絡・確認のために利用します。
- 応募作品は、自作で未発表のものに限ります。

4. 提出方法

- 小学生の部、中学生の部、高校生の部、一般の部は、総務省政策統括官室まで、メール又は郵送にて提出してください。
- 統計調査員の部は、所属する都道府県又は市区町村の統計主管課へ提出してください。
- 公務員の部のうち、各府省の職員は、職場の取りまとめ部署へ提出してください。
- 公務員の部のうち、都道府県及び市区町村の職員は、所属する都道府県又は市区町村の統計主管課へ提出してください。

(参考) 総務省ホームページ<「統計の日」標語募集について>を御覧ください。

- 過去の特選作品
令和6年度「今を知り 未来つくろう 統計パワー」
令和5年度「統計は 未来を支える おくりもの」
- 過去の入選作品をご覧になりたい方又は
応募用紙をダウンロードされたい方はこちら



URL : https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/info/guide/07toukei_hyogo.html

5. 提出先

メールの場合 toukeinohi_atmark_soumu.go.jp
 [_atmark_]を[@]に置き換えてください。

郵送の場合

〒162-8668 東京都新宿区若松町19-1
 総務省政策統括官付統計企画管理官室地方統計機構担当 宛て

6. 入選作品の決定・発表

- 入選作品は、部門ごとに佳作1作品程度、そのうち、特に優秀な作品として特選1作品を決定します。
- 入選作品は、令和7年6月(予定)に発表します。
- 入選された場合、御本人(又は応募作品の取りまとめ部署等)に御連絡するとともに、総務省のホームページや広報誌等において、作品、氏名、所属・学校名(学年)、都道府県名を発表します。

7. 表彰

入選者には、表彰状及び副賞を授与します。

8. 著作権

入選作品の著作権は、総務省に帰属します。

9. お問い合わせ先

総務省政策統括官付統計企画管理官室地方統計機構担当
 電話 03-5273-1144(直通)
 メール toukeinohi_atmark_soumu.go.jp
 [_atmark_]を[@]に置き換えてください。



【令和6年度「統計の日」ポスター】
 ※令和6年度の特選作品が活用されています

とうけい通信③7

山梨県の魅力

山梨県は南部に世界遺産富士山、北部に八ヶ岳、北東部に秩父山塊、西部に南アルプスと周囲を山に囲まれ、県土の約8割が森林と、日照時間にも恵まれた自然あふれる土地です。

森林面積割合77.8%：全国4位（令和元年度）
年間日照時間2,298.1時間：全国3位（令和4年度）
（統計でみる都道府県のすがた2024：総務省統計局）

「ワイン県」山梨

令和元年に「ワイン県」を宣言した山梨県は、日本のワイン発祥の地といわれ、全国1位のワイナリー数を誇る日本を代表するワイン産地です。

特に、長い歴史を持つ日本固有品種の甲州ぶどうを使った甲州ワインは品質向上により国際的に評価され、様々な賞を受賞しています。和食に合う味わいも特徴です。また、国産ブドウ100%で造られた「日本ワイン」は、山梨県が全国1位の生産量で、「日本ワイン」の品質を競う「日本ワインコンクール」も毎年山梨県で開催されています。

ワイナリー数89事業所：全国1位（令和6年）
日本ワイン生産量4,278kl：全国1位（令和5年度）
（酒類製造業及び酒類卸売業の概況：国税庁）

海なし県の美味しい魚介類

生産量全国1位のブドウや桃は、山梨の特産品として有名ですが、海がない山梨で、甲府市のアサリ支出額は全国1位、マグロ支出額も静岡市に続いて全国2位となっています。

10万人当たりのお寿司屋さんの数でも山梨県は全国1位なのです。

山梨で贈答品として有名な鮑の煮貝は、輸送手段や冷蔵技術がない時代に駿河の海で採れた鮑を醬油樽に入れ運んだところ、山梨に着く頃にはさらに美味しくなったといわれる名産品です。

甲府は、海辺から内陸へ腐らせることなく生魚を運べる限界の魚尻線(うおじりせん)に位置し、運搬経費がかかった高級品は、ハレの日の御馳走として山梨に根付いたといわれています。

ミネラルウォーター生産量1位の豊かな水資源を生かし、山梨のブランド魚として、キングサーモンとニジマスから開発された「富士の介」、ブドウの果皮を飼料に加えて養殖した「甲斐サーモンレッド」も人気です。

山梨で魚介類を楽しむのも一興です。

ブドウ・桃生産量：全国1位（令和5年）
（作物統計調査：農林水産省）
アサリ支出額：全国1位（令和3年～5年平均）
マグロ支出額：全国2位（令和3年～5年平均）
（家計調査・二人以上の世帯：総務省統計局）

山梨県県民生活部統計調査課

10万人当たりのすし店舗数：全国1位
（令和3年経済センサスー活動調査：総務省統計局・経済産業省）
ミネラルウォーター生産量：全国1位（令和5年）
（ミネラルウォーター協会統計資料）

山梨の春

今年の春には第51回信玄公祭りが開催される予定です。言わずと知れた戦国時代の名将、武田信玄の遺徳を偲び開催されるお祭りで、1000人を超える戦国武者が集結するメインイベント「甲州軍団出陣」は圧巻の迫力で、一見の価値あります。

また、3月4月は桃の花の季節。全国一の生産量を誇る桃の産地の満開の桃の花は、桃源郷と呼ばれるほど見事です。青空を背景に桃の花と菜の花の取り合わせも美しく、時期を合わせれば桜も同時に楽しむこともできます。短い期間ですが、絶景の山梨の春を堪能しに山梨へ是非お越しください。



やまなし県民手帳

2025年版やまなし県民手帳が販売中です。

山梨県主要統計、統計でみる山梨県のすがた、グラフでみる山梨はもちろん、山梨の見どころマップ、各市町村のお祭りなどの行事、県立施設の優待特典と情報満載です。2025年版はワインレッドとブラックのほかに、富士・東部地域の特産品である郡内織物を使用した光沢のある高級感漂う富士山柄のプレミアム版もあります。御興味がある方は山梨県ホームページで「県民手帳」と検索してみてください。

2025年版
やまなし県民手帳
絶賛発売中！

表紙が郡内織物
デザインは富士山柄です

プレミアム版
1,200円
（税込）
数量限定

従来版のカラーは2種類
ワインレッド & ブラック

従来版
各680円
（税込）

県内お役立ち
情報が満載！

県立施設のお得な優待特典付き！
施設により、オリジナルグッズプレゼントや
入館料割引が受けられます※各施設1回限り

最近の数字

		人口		労働・賃金			産業		家計(二人以上の世帯)		物価	
		総人口 (推計による人口)		就業者数	完全失業率 (季節調整値)	現金給与総額 (規模5人以上)	鉱工業 生産指数 (季節調整値)	サービス産業 の月間売上高	1世帯当たり 消費支出	1世帯当たり 可処分所得 (うち勤労者世帯)	消費者物価指数	
		千人(Pは万人)									万人	%
実数	2024. 8	123887		6815	2.5	296,154	99.7	33.0	297,487	482,029	109.1	108.4
	9	P 12378		6814	2.4	291,712	101.3	P 35.0	287,963	402,605	108.9	108.1
	10	P 12379		6813	2.5	292,430	104.1	P 34.1	305,819	484,600	109.5	108.8
	11	P 12379		6814	2.5	308,486	101.8	P 33.8	295,518	422,337	110.0	109.2
	12	P 12374		6811	2.4	P 619,580	P 102.1	...	352,633	975,024	110.7	109.8
2025. 1	P 12359		P 110.2
前年同月比	2024. 8	-		%	ポイント	%	%	%	%	%	%	%
	9	-		0.6	* -0.2	2.8	* -3.3	2.5	-1.9	3.7	3.0	2.6
	10	-		0.4	* -0.1	2.5	* 1.6	P 2.0	-1.1	-1.8	2.5	2.1
	11	-		0.6	* 0.1	2.2	* 2.8	P 2.5	-1.3	1.9	2.3	1.8
	12	-		0.5	* 0.0	3.9	* -2.2	P 2.8	-0.4	1.2	2.9	2.5
		-		0.8	* -0.1	P 4.8	* P 0.3	-	2.7	3.0	3.6	3.1

(注) P:速報値 * :対前月
家計(二人以上の世帯)の前年同月比は実質値

掲示板 統計関係の主要日程 (2025年2月~2025年3月)

《会議及び研修関係等》

時期	概要	時期	概要
2月5日	人口・経済統計コース「社会・人口統計の基本」開講【集合】(～6日)	2月12日	オンライン統計研修【第4回】統計実務職員(統計データアナリスト補)研修「統計分析の基本」開講(～3月11日)
〃	オンライン統計研修【第4回】統計実務職員(統計データアナリスト補)研修「調査設計の基本」開講(～3月4日)	〃	オンライン統計研修【第4回】統計データアナリスト研修「統計データアナリスト研修」開講(～3月11日)
〃	オンライン統計研修【第4回】データ活用コース「政策評価と統計」開講(～3月4日)	〃	オンライン統計研修【第4回】データ活用コース「データサイエンス演習」開講(～3月11日)
〃	オンライン統計研修【第4回】データ活用コース「ビッグデータ活用-基礎から応用まで」開講(～3月4日)	〃	オンライン統計研修【第4回】データ活用コース「誰でも使える統計オープンデータ」開講(～3月11日)
〃	オンライン統計研修【第4回】データ活用コース「データサイエンス入門」開講(～3月4日)	18日	マイクロデータコース「マイクロデータ分析のためのプログラミング-統計解析ソフトRの利用方法-」開講【集合】(～20日)
〃	オンライン統計研修【第4回】統計作成実務コース「産業連関表の作成・分析」開講(～3月4日)	〃	都道府県等統計主管課(部)長会議
12日	オンライン統計研修【第4回】統計取扱業務担当職員向け研修「統計担当者向け入門」開講(～3月11日)	21日	事例から学ぶ ビジネスパーソン向け統計データ活用セミナー【第3回】【ライブ配信】

《調査結果の公表関係》

時期	概要	時期	概要
2月7日	家計調査(家計収支編:2024年12月分、10～12月期平均及び2024年平均)公表	3月11日	消費動向指数(CTI)2025年1月分公表
〃	家計消費状況調査(支出関連項目:2024年12月分、10～12月期平均及び2024年平均 ICT関連項目:2024年10～12月期平均及び2024年平均)公表	19日	人口推計(2024年10月1日現在確定値及び2025年3月1日現在概算値)公表
〃	消費動向指数(CTI)2024年12月分、10～12月期平均及び2024年平均公表	21日	消費者物価指数(全国:2025年2月分)公表
〃	小売物価統計調査(ガンソリ)2025年1月分公表	〃	小売物価統計調査(全国:2025年2月分)公表
14日	労働力調査(詳細集計)2024年10～12月期平均及び2024年平均公表	26日	サービス産業動態統計調査(2025年1月分速報)公表
20日	人口推計(2024年9月1日現在確定値及び2025年2月1日現在概算値)公表	〃	サービス産業動向調査(2024年10月分確報)公表
21日	消費者物価指数(全国:2025年1月分)公表	〃	経済構造実態調査(2024年一次集計結果)公表
〃	小売物価統計調査(全国:2025年1月分)公表	28日	消費者物価指数(東京都区部:2025年3月分(中旬速報値)及び2024年度平均(速報値))公表
〃	統計でみる都道府県のすがた 2025刊行	〃	小売物価統計調査(東京都区部:2025年3月分)公表
28日	消費者物価指数(東京都区部:2025年2月分(中旬速報値))公表	〃	住民基本台帳人口移動報告(2025年2月分)公表
〃	小売物価統計調査(東京都区部:2025年2月分)公表	下旬	令和5年住宅・土地統計調査(土地集計)公表
〃	サービス産業動向調査(2024年12月分及び10～12月期速報並びに2024年9月分及び7～9月期確報)公表		
〃	日本の統計 2025刊行		
〃	世界の統計 2025刊行		
〃	住民基本台帳人口移動報告(2025年1月分)公表		
3月3日	2024年(令和6年)個人企業経済調査結果公表		
4日	労働力調査(基本集計)2025年1月分公表		
7日	小売物価統計調査(ガンソリ)2025年2月分公表		
11日	家計調査(家計収支編:2025年1月分)公表		
〃	家計消費状況調査(支出関連項目:2025年1月分)公表		

編集発行 **総務省統計局**

〒162-8668 東京都新宿区若松町19-1

総務省統計局 統計情報利用推進課 情報提供第一係

TEL 03-5273-1160 E-mail y-teikyoul@soumu.go.jp

ホームページ <https://www.stat.go.jp/>

御意見・御感想をお待ちしております。